

耐震強度検討書(アンカーボルト, 設計用水平震度Kh=2.0)

1. 機種 = 天井ビルトイン形室内ユニット

2. 形名 = MPD-RP40・50FA2

3. 機器諸元(図1参照)

- (1)機器質量(運転質量) W = 32 kg
- (2)アンカーボルト
 - ①総本数 N = 4 本
 - ②サイズ・形状 M = 10 形
 - ③1本当たりの軸断面積(呼径による断面積) A = 78 mm² = 78×10⁻⁶ m²
 - ④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数 Nt = 2 本
- (3)据付面より機器重心までの高さ Hg = 148 mm = 0.148 m
- (4)検討する方向からみたボルトスパン L = 670 mm = 0.67 m
- (5)検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離 Lg = 285 mm (Lg ≤ L/2) = 0.285 m

4. 検討計算(各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1)設計用水平震度 Kh = 2.0
 - (2)設計用鉛直震度 Kv = Kh/2 = 1.0
 - (3)設計用水平地震力 Fh = Kh・W・9.8 = 627.2 N
 - (4)設計用鉛直地震力 Fv = Kv・W・9.8 = 313.6 N
 - (5)アンカーボルトの引抜力

$$R_b = \frac{F_h \cdot H_g + (W \cdot 9.8 + F_v) \cdot (L - L_g)}{L \cdot N_t} = 249.5 N$$
 - (6)アンカーボルトのせん断力 Q = Fh/N = 156.8 N
 - (7)アンカーボルトに生ずる応力度
 - ①引張応力度 σ = Rb/A = 3.2 MPa < ft = 176.4 MPa
 - ②せん断応力度 τ = Q/A = 2.0 MPa < fs = 132.3 MPa
 - ③引張とせん断を同時に受ける場合

$$f_{ts} = 1.4ft - 1.6τ = 243.7 MPa$$
- σ = 3.2 MPa < f_{ts} = 243.7 MPa

(8)アンカーボルトの施工法

- ①アンカーボルトの施工法 = 埋込式L形アンカ
- ②コンクリートの厚さ = 150 mm = 0.15 m
- ③ボルトの埋込長さ = 110 mm = 0.11 m
- ④許容引抜加重 T_a = 3528 N > R_b = 249.5 N

以上の検討結果よりアンカーボルトは十分なる強度を有する。
本検討書はアンカーボルトについての強度検討書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。

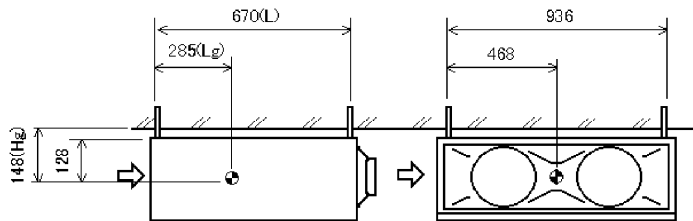


図 1